

[研究ノート]

ナウル共和国のピジン英語

岡村 徹

はじめに

この研究ノートは、本学リベラルアーツ学部の専門科目「地域研究 A」の教材の作成を試みたものである。これまでナウル共和国には複数回訪問する機会があった。ナウルを訪れるには、ブリズベンの総領事館でナウルとブリズベンの間の往復のチケットの入手とメネン・ホテルの宿泊の予約とビザの申請をしてから行くのが一般的である。

以前ナウルを訪れたときと変わっていない部分もあれば、大きく変わった部分もある。大きな社会変動があったにもかかわらずナウル教育省に勤務する友人は以前と同じように明るい。2000年以降は、アフガニスタン難民の受け入れ、資金洗浄、燐鉱石の枯渇、中国および台湾との関係悪化、国家の破綻、糖尿病疾患率世界1位、度重なる大統領の交代など、決して良いニュースとは言えない情報ばかりが私の耳に入って来ていたので、この10年ほどの間はナウルのことが大変気になっていた。これらのことをナウルが経験したためか、車、ホテル、施設などの老朽化が以前よりも目立つようになっていた。きっとお金がないのだろう。それでも2015年に放送されたテレビ番組によると、ナウルは難民の受け入れで、年間20億円を豪州からもらっているらしい（未来世紀ジパング2015年3月16日放送分）。大国に翻弄されながら、今後もナウルは前を向いて歩いて行かねばならないのだろう。

もう一つ、以前と変わらないものがある。それは中国人とナウル人とが商店や食堂で使うピジン英語である。この言語はナウルに暮らす中国人にとっては日常的な言語である。また学術的にも大変貴重である。なぜならばことばの成立の過程や変化の有り様がわかるからである。その言語が危機に瀕しているとあれば言語学者としてきちんと文法書を残すなど記録しておくべきである。

以下、ピジン英語とある場合、それはナウル共和国で話されているピジン英語を指す。それ以外の地域で話されているピジン英語に言及する場合はナウルのピジンと区別するために言語の名称あるいは地域や国名が冠した言語名を明記する。ピジン英語の用例は岡村（2004）、Okamura（2007）、Siegel（1990）を、文法は岡村（2011）を、豆知識は岡村（2004、2008、2009、2014、2015）を参考にした。

発音とアクセント

ピジン英語の母音や子音を観察してみよう。基本的には5つの母音 /i, e, a, o, u/ がある。二

重母音は、[aɪ], [əʊ], [eɪ] などがある。laiki [laiki] は明るい [i] と暗い [ɪ] で発音しても通じるし、sabe は、[e] でも [ɛ] でも通じる。下記の例 (1) は、最初を強くよむ場合もあれば後ろを強くよむ場合もある。後ろを強くよむ場合はピースイーと長母音化する（太字は主強勢）。

例 (6) も 2 通りの発音の仕方がある。語頭の [o] を短く発音する場合とそれを長く発音する場合とがあり、オーテルとなり後ろにアクセントを置く。

母音いろいろ

(1) pisi (量詞)	[pisi, pi:si:]	ピースイー
(2) siusiu (少し)	[siusiu]	スイウスイウ
(3) sabe (知る)	[sabe]	サベ
(4) gelu (少女)	[gelu:]	ゲルー
(5) gadudu (子ども)	[gadudu]	ガドウドゥ
(6) otel (ホテル)	[otel, o:tɛl]	オーテル
(7) toktok (話す)	[tɔktɔk]	トクトク
(8) kumo (豚)	[kumo]	クモ
(9) gud (良い)	[gud]	グッドゥ

子音は、/b, d, f, g, h, k, l, m, n, p, r, s, t, v, w, y/ の 16 子音がある。文字の種類に関して、c, q, x, z は用いない。ただピジン英語を使って書く習慣がないため、表記は固定していない。

子音いろいろ

(11) bikfela (大きい)	[bɪk] [bɪkfəla]	ビックフェラ
(12) dei (日)	[dei]	デイ
(13) finis (完了)	[finisi]	フィニス
(14) go (行く)	[go]	ゴー
(15) hasiban (夫)	[hasɪbən]	ハスイバン
(16) kaikai (食べる)	[kaɪkaɪ]	カイカイ
(17) laik (i) (好き)	[laɪki:]	ライキー
(18) mi (私)	[mi]	ミ
(19) no (否定辞)	[no]	ノー
(20) planti (多くの)	[planč:]	プランツイー
(21) rum (部屋)	[rum]	ルム

(22) stop (～にいる)	[stɒp]	ストップ
(23) toktok (言う)	[tɔktɔk]	トックトック
(24) vijibal (野菜)	[vijibal]	ヴィジバル
(25) wok (働く)	[wɔk]	ウオック
(26) yu (君)	[yu]	ユー

ピジン英語の音韻現象で重要なのは、/i, u, o/ といった母音が英語起源の単語の語末に添加されることである。これら母音の添加は随意的であるが、その頻度においては /i/ が最も高く、次に /u/ が続く。例 (4) は /u/ の添加例である。品詞との関連で言うと、名詞類、動詞類との共起率が高い。

[i] の添加

laiki [laiki:] (= like) / aunti [anti:] (= aunt) / mausi [mausi:] (= mouth)

hausi [hausi:] (= house) / raisi [raisi:] (= rise)

[u] の添加

yesu [iesu:] (= church) / gelu [gelu:] (= girl) / faifu [farfu:] (= five)

/ waifu [warfu:] (= wife)

一つの傾向性として、-i: は -k, -s, -t で終わる子音に添加される傾向にある。例えば、laik は laiki [laiki:] となる。また -u: は子音が -l で終わるものに多い。例えば girl は、gelu [gelu:] となる。Chang (1987) によると、中国人は英語を話す際、子音終わりの英単語を発音することに対して苦手意識をもっているという。その際にとられる処置として、母音を添加するか、子音を脱落させるかのどちらかであると述べている。

またナウルの方が中国人より母音を添加する割合が多い。例えば kill は中国人によって使用されるとき母音が添加されないが、ナウル人は添加する。これはナウル人の頭の中に中国人は頻繁に母音を添加するという意識があり、本来、中国人が使わないところでも添加してしまうという一種の過剰矯正が関係していると考えられる。これらの母音添加は名詞類や動詞類に多く、頻度的には -i が一番多い。Siegel (1990) によると、この他に -o という母音添加もあるようだが、筆者はまだ観察できていない。これら三つの母音添加は随意的であるが、おそらく単語の種類によっては母音添加がかなり義務的になってくるとと思われる。

この母音添加と関連があるのが、後述する量詞 piecee である。Todd (1984) によると、この語彙は英国から木綿の生地を輸入していた際に中国沿岸部に定着した語彙であるという。

しかし筆者はむしろ次のように考えている。中国人と英国人との接触の初期の段階で one

piece とか two piece という言い方で、商取引が行われ、それが先に述べたような理由で piecee となって中国沿岸一帯に定着し、さらにナウルに運ばれていったと考える。この piecee の用法自体は中国語の量詞と機能的には類似している。すなわち、数詞+量詞+名詞という形態の順序が同じである。ただし中国語の場合は名詞の種類に応じて量詞の形式が異なる。

[1] 代名詞 (1)

私の名前はロクセンです。 Mi nem Rok Sen.

[表現]

(1) 私の友だち

blong mi fren
ブロング ミー フレン

(2) あなたのお名前は？

Yu nem?
ユー ネム

[語彙]

blong	の	blong mi	私の	blong yu	君の
mi	私、私の	yu	君、君の	fren	友だち
nem	名前	Rok Sen	ロク・セン		

[文法]

例文 (2) に関して：

まず、代名詞と名詞の語の配列を見る。例文の (2) と下記の (a) にあるようにピジン英語は代名詞が先にくて、名詞が後にくる。ナウルのピジン英語は他の太平洋地域で話されているピジン英語と特徴を異にする。

代名詞の語形が周辺の言語と異なることも付け加えておきたい。ピジン英語では、主格、所有格、対格における語形が全て同じである。加えて、所有格は、blong を伴った形 blong mi とそれが伴わない形 mi の両方がある。おそらくこれは、中国沿岸のピジンにあった要素を受け継ぎ、そのまま語順が温存されたのであろう。Todd (1984) の中国沿岸ピジンの資料に次のような例文がある。Belong what name? 'What is your name?' (Todd 1984:261)。what を yu に置き替えたら、上記の例 (2) と同じである。つまり基本的な語順は中国から持ち込まれたと考

えるのである。

ナウル語は、所有格＋名詞の語順である。この語順が逆になることはない。たまたまピジン英語と同じ語順であるが、だからと言って、ピジン英語がナウル語の影響を受けているとは言えない。

- (a) N: aeo T-shirt
 私の T シャツ
- (b) N: ageo man
 私の 夫

文中にある blong の用法について、筆者はそれが余剰的なものであると考えている。これは英語にも中国語や太平洋諸島の言語にも見られない表現である。

[豆知識：地理・経済・歴史・言語]

ナウル島は、赤道の南約 50 km の南緯 0° 31'、東経 166° 56' の太平洋上にある共和国である。面積は 21 平方キロメートルで共和国としては世界最小の国である。近くにはオーシャン島があり、赤道直下ということもあって、一年を通じて気候は温暖である。

現在でも豪州の通貨が使われており、政治的・経済的に豪州の影響は大きい。GDP は太平洋島嶼国の中で一番高かったが、近年における燐鉱石の輸出の減少によって、ナウル島の経済は大きな転換を迫られている。

歴史的には 1798 年に J. ファーンが最初にナウル島を発見したとされている。ドイツによるナウル島の統治が 1905 年に終わると、その後英国、豪州、NZ による三カ国共同統治が始まる。1942 年 8 月に日本軍がナウル島を占領するが、戦後は再び豪州による統治が行われる。1968 年に独立するが、周辺諸国からの技術援助や契約労働者の社会への貢献を受けながら今日に至っている。

言語はいまだ系統がはっきりしないナウル語が主要言語であるが、英語も通じる。20 世紀初頭に中国人によってもちこまれた中国沿岸のピジン英語は、その後、太平洋諸島のピジン英語の影響を受けながら、かつ、その話し手の数は増減を繰り返しながら、今日でもナウル人と中国人との間で重要なコミュニケーションの手段として使われている。

[2] 形容詞

お前の豚は大きいか？ Yu kumo bigfela?

[表現]

(3) フィジは いいところだ。

Fiji gud.
フィジ グッド

(4) お前の豚は小さいのか？

Yu kumo smolfela?
ユー クモ スモルフエラ

[語彙]

yu	君、君の	Fiji	フィジー共和国	gud	良い
bigfela	大きい	kumo	豚	smol(fela)	小さい

[文法]

例文 (4) に関して：

ピジン英語にはあまり生産的ではない、形容詞接尾辞 *-fela* がある。形容詞は名詞に前置する。現時点で生じたり生じなかったりする、形容詞接尾辞 *-fela* の出現が太平洋諸島民との接触を継続させることによって逆に安定してくる可能性もある。

(a) big (fela) kumo
大きい 豚 ‘大きい豚’

(b) N: ikumo ouwak
豚 大きい ‘大きい豚’

ナウル語は、例文 (b) と (c) にあるように、被修飾語 + 修飾語、修飾語 + 被修飾語の二通りの語順が可能である。ナウル語がそうであるように、オーストロネシア諸語の中には、二通りの語順を有する言語が多い。しかし、世界のピジン英語では多くの場合、どちらか一つの語順を採用していることが多い。語句 (c) は、冠詞 *bita* や、強調の *kor* が含まれているが、語句 (b) には含まれていない。したがって、(b) のほうが無標の、つまり、より基本的な語順であると言える。

(c) N: ouwak kor bita ikumo
大きい とても 冠詞 豚 ‘大きい豚’

[豆知識：空港・ホテル・レストラン・スーパー・電話]

豪州のブリズベンにあるナウル総領事館で、ナウルとブリズベン間の往復の航空券を購入

し、さらにそこでメネン・ホテルの宿泊証明を取得すれば、ようやくビザが発券される。航空会社は Our Airline である。この会社の航空機は台湾から無償で譲渡されたもので 2006 年から運航が開始された。従来は Air Nauru が周航していた。ナウルにはブリズベンから約 5 時間 30 分で到着する。到着した空港の税関では、パスポートを見せ、それを後日ガバメント・ハウスにある移民局まで受け取りにいかないといけない。

空港からはメネン・ホテル宿泊客専用のバスでホテルまで向かう。約 10 分で到着する。ホテルの受け付けでチェックインをした後は自由。料金は一番安い部屋で一泊 100 ドル強。オーシャンビューの部屋になると、500 ドルくらいになる。ホテル内では週に 2 回、バーベキューがある。肉や魚を使った料理が毎回出る。デザートも充実している。このときにしっかりと野菜を取ると良い。なぜならば、ナウルでは一年を通して野菜が不足しているためである。100% 近く豪州などから食糧を輸入している。

このメネン・ホテルとは反対側にアイウォ・ホテルがある。こちらは少し宿泊費が安い。特に 1 週間以上ナウルに滞在する場合は、上記のメネン・ホテルと併用で利用すると良い。近くに中華街があるので、便利もいい。このホテルにもレストランがある。野菜が不足しているときでも、トマトスープはある。

アイウォ・ホテルの両側に低料金で食事がいただける中華レストランがある。そのうちの一つは、何度も通っていると、ヘルシーな賄いの料理を出してくれる。キンメダイによく似た魚の煮付け料理は絶品である。2 ドルから 3 ドル（日本円で 240 円ほど）でどんぶり飯を腹一杯いただける。あと空港にあるレストランとレイノルズと呼ばれる中華レストランもお薦めである。

あまりレストランばかり利用していると、お金もかかる。そういうときは、島内にあるスーパーで食材を購入すると良いであろう。カペレと呼ばれるスーパーマーケットには日用品や衣類や食料品などが所狭しと並んでいる。またここではファーストフードも注文できる。

ホテルの電話は利用可能だが、一日の中で何度か、あるいは一日じゅう節電のため電力供給を停止することがある。こうなると電気もつかないし、電話も使えなくなる。そのときはガバメント・ハウスの近くにある公衆電話を使って外部と連絡をとれば良い。ただ多くの人が順番を待っており、効率が悪い。日本の文部科学省に相当するナウルの教育省に行き、その電話を利用させてもらうのが一番早い。ただこれは緊急時にのみ利用するとしたい。

[3] 自動詞／他動詞

彼が私の豚を殺した。

Ada boi kilu mi kumo.

[表現]

(5) お前の友だちは来るのか？

Bambai **yu** **fren** **kam?**
バンバイ ユー フレン カム

(6) 私は自分の T シャツを洗う。

Mi **was** **mi** **T-shat.**
ミー ワス ミー ティーシャット

[語彙]

mi	私、私の	was	洗う	T-shat	T シャツ
yu	君、君の	ada boi	彼	kilu	殺す
kumo	豚	fren	友だち	kam	来る
bambai	未来時制マーカー				

[文法]

例文 (6) に関して：

ピジン英語の他動詞構文は、SVO の語順をとる。このピジン英語の語順は、世界言語全体の 42% の世界に入り、一般的であることがわかる。

この基本語順は、周辺の接触言語、例えばニューギニア、バヌアツ、ソロモン諸島、トレス海峡諸島のピジン英語などと同じである。ピジン英語の語彙は英語が中心だが、その文法は英語と大きくかけ離れている。

オーストロネシア諸語は全体的に VO 型が基本である。オーストロネシア祖語の語順も崎山 (1986) や山本 (2003) によると、VO 型の可能性が高いという。混種的な特徴をもつナウル語も例外ではない。20 世紀の前半に VO 型語順を基本とする、中国沿岸のピジン英語を話す燐鉱石採掘労働者等が広東や香港からナウルに来島した。VO 型の世界に VO 型の言語がそのまま入り定着したと考えられる。

ナウル語は、目的語が主語に後置される場合と前置される場合の両方がある。以下のナウル語の資料は、ナウル総領事館の総領事に提供してもらった。

- (a) N: a **ugo.**
 I **shower** ‘私はシャワーを浴びる。’
- (b) N: **ugo** **na.**
 shower I ‘私はシャワーを浴びる。’

ナウル語は SVO も OSV も可能だが、後者の語順は強調の意味を伴ったときに使う。したがってナウル語の基本語順は SVO であると考えたほうがよい。

[豆知識：人口、島民の暮らし]

平成 27 年の外務省の基礎データによると、ナウルの人口は約 1 万人ある。そのうち約七割がナウル人である。海外から燐鉱石採掘のために来島した、契約労働者の存在は大きい。1950 年までは中国系の契約労働者の数が太平洋諸島民のそれよりも全般的に上回っていた。

中国人は、1906 年に燐鉱石の採掘労働者としてナウル島に来島した。毎年 1,000 人前後の安定した労働力が広東や香港から供給された。契約は 3 年であったが、更新することも可能であった。また、商店やレストランを経営する中国人も増えていった。

一方、太平洋諸島民は中国人に比べて人口が少ないが、中国人よりも早くにナウル島に来島していた。徐々に人口を増やし、ついには中国人よりも多くなっていった。燐鉱石の採掘ばかりでなく、中国人の経営する商店やレストランに雇われて働く機会も徐々に増えていった。1921 年以降、ナウル人の人口は常に他を上回ってきた。もっとも 1945 年には、戦争のため、極端に人口が減るが、1966 年には 3,000 人近くを数えるに至った。

今日では全体の 70% (7~8 千人) 近くをナウル人が占めるようになった。続いて、太平洋諸島民 (ソロモン諸島民、キリバス人、ツバル人、パプアニューギニア人、フィジー人ほか) が約 24%、アジア系 (中国人、フィリピン人、インド人ほか) が約 6%、そしてアフガニスタン等からの難民がいる。豪州人は 1% にも満たないが、その政治的・経済的な影響は大きい。

休日は海水浴を楽しむ人をよく見かける。日本の ODA で漁港が造られたが、そこがプールの代わりになっている。また昔からの光景だが、トラックの荷台に乗って、缶ビールを飲みながら、島を何周もまわる。スポーツはラグビーと重量挙げの人气が高い。前大統領のマーカスはシドニーオリンピックで重量挙げの選手として活躍した。休日は皆、楽な服装をしている。その服装を見れば、ナウル人かどうかの区別ができる。ナウルの女性はゆったりとしたワンピースを身につける機会が多い。

土曜と日曜は教会に行く島民が多い。キリスト教を信仰している島民がほとんどである。

もう一カ所、島民の集まる所がある。それはシビックセンターである。ここには、郵便局や銀行や旅行社が入っている。別に、そこに用事がなくても集まって来る。エアコンが効いていることも理由の一つであるが、何よりも仲間と会い、自分たちが仲間であることを再確認する場として、自然とここに集まってくるのだろう。

[4] 存在文

学校に子どもが二人いる。 Tu gadudu in da skul.

[表現]

(7) 私は2人しか子供はいない。

Mi onli tu gadudu.
ミー オンリ トゥー ガドゥドゥ

(8) ホテルに子供が2人いる。

Tu gadudu in da otel.
トゥー ガドゥドゥ イン ダ オーテル

[語彙]

tu	2つの	gadudu	子ども	in	～に
da	冠詞	otel	ホテル	mi	私
skul	学校	onli	唯一の		

[文法]

例文 (7) と (8) に関して：

存在文について考えてみよう。多くのピジン英語やクレオール英語では下記の (a), (b) の両方の言語環境で *gat* (ある、持つ) を使ってそれを表現する、つまり二つの異なる言語環境で一つの語彙項目が使われるという点での共通点はある。ただ、*gat* の使用が随意的である点が他の言語とは異なる。例文 (a) では、*gat* を用いても用いなくてもよい。この点で、ナウルのピジン英語はその性質を異にする。

(a) Mi (gat) onli tu gadudu.

1 sg たったの 二 子供

「私は2人しか子供はいない」

(b) Tu gadudu in da otel.

2人 子供 LOC DET ホテル

「ホテルに子供が2人いる」

ナウル語は、*timine* (～がある、～がいる) を使う。

(c) E timine God

There is God. (Rensch 1993:165)

(d) Ina eanakiwui ubuiom?

Are there some coconuts at your home? (Rensch 1993:165)

[豆知識：燐鉱石]

ナウルの人々の生活はその大半が、燐鉱石による収入で成り立っていた。この燐鉱石を最初に発見したのは19世紀の後半に、農業用の化学肥料が極端に不足していた英国である。その後豪州や日本なども触手を伸ばしていくことになる。1943年の5月15日の朝日新聞には、当時の日本がナウル島の燐鉱石に強く関心を持っていたことが報じられている。「埋蔵量一億トンのリン鉱と多額のコプラを産出する宝庫ナウル島がナウル人のために、大東亜民族のために本格的に開発される日は近い」（朝日新聞 昭和18年5月15日）。

また戦前から燐鉱石を農業用に欠かせないものとして位置付けていた豪州は戦後すぐに燐鉱石の輸入を再開している。「豪州政府は、ナウル島とオーシャン島の復興はできるだけ早くに行われるべきであるとの見解を発表している。両島における燐鉱石は世界一豊富で純度も高く、豪州の食産業を緊急に高める必要があるからである」[Sun Sydney, Aug 21 1945]。

ナウル島における燐鉱の生産は、クリスマス島やバナバ島（オーシャン島）での採掘量をはるかに凌ぐほど大きい。輸出先の上位には豪州やNZはもちろん、英国や日本も顔をのぞかせている [Williams & Macdonald (1985:565)]。

今日、燐鉱資源の減少による国力の低下をはね返すために、燐鉱の二次採掘の可能性を模索しているらしい。果たして採算がとれるか、ナウル人のみならず世界が注視している。

[5] 過去と未来

彼女は昨日タラワに行った。 Shi go Tarawa yesterdei.

お前の友だちは来るのか? Bambai yu fren kam?

[表現]

(9) 私はメネンホテルに宿泊します。

Bambai	mi	stop	Meneng	otel.
バンバイ	ミー	ストップ	メネン	オーテル

(10) 昨日、彼女はタラワに行きましたよね。

Shi	go	Tarawa	yesterday,	is	shi?
シー	ゴー	タラワ	イエスタディー	イズ	シー

[語彙]

Meneng	メネン	otel	ホテル	stap	いる
yu	君、君の	shi	彼女	Yesterdei	昨日

fren	友人	kam	来る	mi	私
go	行く	bambai	未来時制マーカー		
is shi?	付加疑問小詞	Tarawa	タラワ (キリバス共和国の首都)		

[文法]

例文 (9) と (10) に関して：

ピジン英語の過去形と未来形を考えて見よう。たいていのピジン英語では副詞句をともなうだけで過去や未来を表わし、動詞の語形自体は何ら変化しないことが多い。英語の *been* に由来する *bin* という形態素は過去時制をあらわし、ピジン・クレオール諸語にあっては最もひんばんに使われる要素であるが、ナウルのピジン英語の録音資料の中に見出すことはできない。下記の例文 (a) に、*bin* を挿入することはできない。筆者は、未来時制をあらわす *bambai* を使った例文 (9) のような要素は太平洋諸島ピジンとの接触が続けば、この要素のピジン英語への浸透も十分あると考えている。現時点ではそれは使われたり使われなかったりする。

- (a) Shi go Tarawa yesterday, is shi?
3 sg 行く タラワ 昨日 TAG
「昨日、彼女はタラワに行きましたよね」(過去)

- (b) Shi stei hia wan wik.
3 sg 滞在する ここ 1 週
「彼女はここに一週間滞在する」(未来)

ナウル語は、現在形も過去形も動詞の語形は変化しない。他の多くの言語がそうであるように、ナウル語も、副詞をともなえば、過去形を表示することができる。また特に過去であることを明示する必要がある場合、*-en* という形態素を付加することができる。例えば宿題は済ませたかどうか親に聞かれ、その返答としてその形態素を動詞に接辞する。

- (c) A mogur
I work./I did work. (Rensch 1993:166)

未来形は、主語と動詞の間に *nan* を置く。

- (d) Wo nan ra.
You will come. Rensch (1993:166)

[豆知識：教育]

ナウル共和国では、幼稚園に相当する2年制のインファント・スクール、小学校に相当する6年制のプライマリー・スクール、6年制のセカンダリー・スクールの4年生までが義務教育

である。そしてそれ以外に職業訓練校と大学がある。

島内にはボエ、アネタン、メネン、ニボックの4つの地区に、インファント・スクールがある。保母も児童も大半がナウル人で、他にフィジー、キリバス、ツバル、サモア人が在籍している。1クラスの人数は20人～25人くらいである。基本的には豪州の教育課程に基づき、教材も大半が豪州で作られたものである。しかし、もちろんナウルの言語や歴史について学ぶ授業もある。

プライマリー・スクールはヤレンとアイウォの2校がある。1クラスの人数はインファント・スクールと同じ25～30人程度で、教育課程はやはり豪州のものに基づいている。英語の授業は、ナウル人の教師が担当しているが、ほとんど英語による授業が行われている。プライマリー・スクールでの問題点は、時折盗難が発生すること、そして保健室の設備とサービスが不足しているということであった。

セカンデリー・スクールには、ナウル人が通学するナウル・セカンデリー・スクール、キリバス人、ツバル人、そして中国人が通学するロケーション・セカンデリー・スクールと私学のケーサー・カレッジがある。

高等教育は、南太平洋大学ナウルセンターがある。南太平洋大学はフィジーのスバに本部を置き、太平洋諸島に全部で12の分校がある。とある時期のナウルセンターを覗くと、教職員は4人、学生は5人しかいなかった。学生はほとんど昼間に仕事をこなすので、授業は午後3時半から7時の間に行われる。

[6] アスペクト

彼女はテニスをし終えた。 Shi finis plei tennis.

[表現]

(11) Nau shi plei tennis.
ASP 3 sg 遊ぶ テニス
「彼女は今テニスをしている」

(12) Shi finis plei tennis.
3 sg ASP 遊ぶ テニス
「彼女はたった今テニスをしおえたところだ」

[7] 副詞

彼らはとてもかっこいい。 Dei planti gud.

[表現]

(13) 豚丼はとてもおいしい。

Kumo	rais	planti	gud.
豚	ライス	ほんとうに	良い

(14) 彼らはとてもかっこいい。

Dei	planti	gud.
デイ	プランティー	グッド

[語彙]

kumo	豚	rais	ライス	dei	彼ら、彼女ら
planti	多くの	gud	良い		

[文法]

例文 (14) に関して：

ピジン英語は、副詞が動詞に先行する。

(a) Mi plandi kaikai
1 sg たくさん 食べる ‘私はたくさん食べた’

ナウル語も、副詞+動詞である。これは固定的である。

(b) N: ouwak ijeiji an
plenty food I ate ‘私はたくさん食べた’

形容詞との関係においてもピジン英語は、形容詞の前に副詞が来る。

(c) Dei planti gud (Okamura 2007:90)
それら たくさん 良い ‘それらはとてもいい’

ナウル語は、mo (形容詞)+okor (副詞)となる。

(d) N: Mo okor tuber rana (Rensch 1993:11)
‘The mat (there) is very good.’ ‘そのマットはとてもいい’

[豆知識：日本語教育 (2)]

戦時中、ナウル人はどんなことを学習したのか。さきほどの6名の方々によると、「ひらか

な、五十音図、読み物なし、基本的なことば、日の丸、君が代、ラジオ体操、おじぎ、日本の伝統、行進曲」を学習したとのことである。他の占領地で行われたことと大きな差はないと思われる。

次に、教師はどのような人であったのか。彼らによると、「紳士、一般人、南拓の人、40～50才、日本人に信用されていたマーシャルの女性とコスラエの男性」に指導してもらったとのことである。ナウル島への接近が極めて困難であることから、周辺諸国、地域の人材も活用していたようである。

また、どんな教材を使用したのか。彼らによると、「黒板を使って書き方を学んだ、プリント教材を使用した、読み方と書き方のみ」とのことである。この辺は想像のつくところである。

また彼らはどんな思いで、日本語を学習したのであろうか。「役に立った、コミュニケーション上、覚える必要があった、学校への参加に関して強制はされなかった」。これについては、大きく見方が分かれる。特に豪州人 Garrett (1996) が集めた資料とは対照的である。それによると、「日本語は強制的に学ばされた、日本語を押し付けられることは恐怖であった、日本語を学習することによって、同じナウル人からスパイだと疑われた」といった声を拾うことができる。(つづく)

[8] 代名詞 (2)

私たちは中国人です。

Blong mi blong yu Chainis.

[表現]

(15) 私たちは日本人です。

Blong	mi	blong	yu	Japanis.
ブロング	ミ	ブロング	ユ	ジャパニス

(16) 学校に行こう。

Blong	mi	blong	yu	go	skul.
ブロング	ミ	ブロング	ユ	ゴー	スクール

[語彙]

blong mi	私	blong yu	君	Japanis	日本人
go	行く	skul	学校	chainis	中国人

[文法]

例文 (15) に関して：

包括・除外複数の区別を見てみよう。包括的複数とは、一人称複数に聞き手を含む場合のことで、除外的複数とはそれを含まない場合を指す。これはオーストロネシア諸語では重要な文法装置の一つで、周辺の諸言語にも備わっている。この現象は、ピジン英語でも認められる。ナウルのピジン英語は、一人称複数の代名詞が語彙化されないが、包括と除外の区別がある。

(a) Mi yu go skul.

1 sg 2 sg 行く 学校

「学校に行こう」(包括複数)

(b) Ada boi an mi go skul.

3 sg C 1 sg 行く 学校

「私たちは学校に行く」(除外複数)

ナウル語は、包括複数として attar (私たち 2 人)、除外複数として amar (私たち 2 人) がある (Rensch 1993:18)。

[豆知識：日本語の語彙]

残存する日本語の語彙に関しては、数字、食べ物、学校での活動、日常的なことから、戦争に関するものが多く残っている (訛ったニホンゴは訂正せずに、そのまま記してある)。

数字、曜日、五十音として、「イチ、ニ、サン、シ、ゴ/ゲツヨウ、カヨウ、スイヨウ/ア、イ、ウ、エ、オ」が、特に高齢世代から聞かれる。

食べ物に関しては、「ゴハン、コメ、サケ、ミズ、カボチャ」などがある。

学校に関するものとしては、「ガッコウ、センセイ、セイト、ベンキョウ」がある。

日常的な用語を表すものとしては、「ドロボー、オドリ、ウタ、センタク、ソージ、シゴト、ビョウキ」がある。これらの語彙がナウル人によって記憶されているのは、一つにはナウル人女性が戦時中、日本兵の身の回りの世話をしていたからである。

また‘ドロボー’に関して、戦時中、盗みが日本人やナウル人によって行われていたことは確認されている。「日本人は車輪のついたものなら何でも奪っていったわ。車にバイクに自転車に何でもよ。ナウル人は歩かされたわ」[Garrett 1996:30]「日本軍は車両をナウル島に持ち込んだはずだ。島にはバイクや自転車はなかった。ただ、燐鉱石会社のトラックは奪ったのではないか」[ナウル通信会 K 氏 筆者の電話による聞き取り, 2000 年]。

タラマタは、今日のナウル島でもよく耳にすることばである。ただしナウルでは意味のずれを引き起こし、本来のサルマタもズボンもタラマタとして使われる。日本では廃語寸前となっている語彙が海外でまだ残っているという報告は他にもある。

この他にもナベやアタマという日本語の語彙が、ナウル人の生活言語の一部になっている。ナベは鍋のことであるが、ナウル島でナベというと特注の分厚い鍋を使って出される、しかも特別なお祝い事をするときにされる料理に限られる。その鍋はやたらと大きく、その中に鶏肉の固まりや野菜などを入れる。

アタマは意味の変化を引き起こし‘ばか’を意味するようになった。

日本軍の敗戦によって、日本語およびニホンゴが消滅してしまったが、いくつか人々の生活に深く根をおろしたものだけが残った。

戦争に関するものとして、「ヒコーキ、グンカン、ヘイタイ、タイチョウ、ホンブ、カイゲン、ナカヤマ、ソエダ」がある。ナカヤマとソエダという日本人名が、今日でも多くのナウル人に記憶されているのは戦時中、かれらがナウル島で指揮をとった中心人物だったからである。

親族関係を表す語彙として、「オトーサン、オカーサン、オトコ、オンナ」がある。

[9]～にいる

私はアニバレレストランにいます。 I stop Anibare restaurant.

[表現]

(17) 私はロケーションに住んでいます。

I stop Location.
アイ ストップ ロケーション

(18) ナウルには15年います。

I stop Nauru fo 15 yia.
アイ ストップ ナウル フォー フィフティーン イア

[語彙]

I	私	Location	ロケーション	stop	～にいる
Nauru	ナウル	fo	～の間	yia	年
Anibare Restaurant	アニバレレストラン				

[文法]

例文(17)に関して：

この stop は世界のピジン英語やクレオール英語で観察される。英語の stay に由来するが、

‘いる’、‘住む’、‘滞在する’といった意味がある。使用頻度の高い動詞で、ナウルにいると必ず耳にする。この動詞に後続する時詞によっては、その文が現在完了進行形のような意味になることもある。

- (a) I stop Nauru for 10 yia.
 1 sg いる ナウル p 10 年
 「ナウルに来て 10 年になります」

[豆知識：日本語の表現]

日本語の表現について見てみよう。初期の接触の際にありがちな命令調の表現が多く見られる。また、過酷な労働を回避する表現や基本的なあいさつ表現も多く見られる。

滑走路建設の際に用いられたと思われる表現がいくつかある。「ミービョウキ、ハライタイ、アタマイタイ、バカヤロウ、コラ、ダメダナー、コマッタナー、アブナイネー、イタイナー」。戦時中、滑走路が旧日本軍の命令によって造られたことは多くの資料で見出せる。‘ミービョウキ’はナウル人が過酷な労働を回避するために用いた。「1942年10月3日、300人以上の日本人が軍艦でナウル島に到着した。そして11月のなかばには700人以上の日本人と朝鮮人が滑走路を造るために二隻の船に乗ってやってきた。その後、数週間以内に何百人というナウル人が作業をさせられた」[Garrett 1996:33-34]。

また筆者(2000)もナウル通信会のK氏に電話でインタビューしたが、「主として、設営隊と称する軍属の労務者が当てていました。現地島民も若干労務に使役しました」との回答を得ている。

[10] 否定

忙しくないときもあります。 Samtaim no bisi.

[表現]

- (19) 私はたくさん豚を飼っていません。

Mi no gat planti kumo.
 ミ ノ ガット プランティー クモ

- (20) 忙しいときもあれば、暇なときもあります。

Samtaim bisi, samtaim no bisi.
 サムタイム ビスィー サムタイム ノー ビスィー

[語彙]

samtaim	時どき	bisi	忙しい	no	否定辞
mi	私	gat	持つ	planti	多くの
no	否定辞	kumo	豚		

[文法]

例文 (19) に関して：

ピジン英語は、一般動詞を否定する場合、否定語＋動詞の順番となる。

- (a) no wok
NEG 働く 「彼は働かない」

述部名詞や述部形容詞を否定するときも、それぞれの要素の直前に否定辞 no を置く。これは独立した単語であり、動詞に接辞するものではない。例は (b) と (c)。

- (b) mi no weitles
1 sg NEG ウェイトレス ‘私はウェイトレスではない’
- (c) mi no bisi.
1 sg NEG 忙しい ‘私は忙しくない’

助動詞＋本動詞という構造においても、助動詞の直前に否定辞を置くだけでよい。

- (d) Mi no laiki go piknik.
1 sg NEG AUX 行く ピクニック
‘私はピクニックに行きたくない’

ナウル語も、本動詞の前に否定辞が来る。次はナウル語の例である。

- (e) N: eo magur
doesn't work ‘私は働かない’

[豆知識：戦跡]

トーチカは連合軍の上陸に備えて旧軍が造った。筆者は島内にある全てのトーチカに入って、旧軍が残した痕跡を調べたが、残念ながら何もなかった。今では子どもたちの遊び場であり、ゴミ捨て場になっている。これを観光資源として活かせないものかと思う。旧軍が造ったものは他にも砲射台、通信基地、電力発電所、水道ポンプがある。博物館には旧軍が使用した小銃や食器などが展示されている。

島に暮らす島民はほんとうに自然な笑顔が印象的である。現在この島はとても平和だが、第二次世界対戦下、島民はきわめて悲惨な体験をした。旧日本軍によってトラック諸島へ強制的に移送されたのと、もう一つはハンセン病者らが虐殺された事件である。他にも公開処刑、旧

軍による強奪、強かん、捕虜になった豪州人の処刑など、とても一言では言い表せないような出来事がたくさん起きた。詳しくは筆者が2000年に執筆した、「日本軍占領下におけるナウル島の日本語教育」『オーストラリア研究紀要』（追手門学院大学オーストラリア研究所）をご覧ください。

また旧日本軍も戦後悲惨な目に遭った。ナウル島は海軍の第67警備隊と横須賀鎮守府第2特別陸戦隊などが守備していたが、戦後豪州軍によって、ソロモン諸島のピエズ島などに収容された。ここはマラリア濃厚汚染地区で、体力を消耗していた兵隊の400人以上が命を落とした。実はこの前に彼らはトロキナ港から死の行軍を強いられて20名前後が亡くなっている。

[11] 代名詞の重複

パーティーの参加者の中には酔っぱらう人もいます。 Pati pipol dei drank.

[表現]

(21) ロクセンはアメリカに行った。

Rok Sen	Shi	go	Amerika.
ロクセン	シー	ゴー	アメリカ

(22) パーティーをすとお酒をいっぱい飲んで問題事を起こす人がいます

Pati	pipol	dei	drank	dei	trabl.
パティ	ピポル	デイ	ドゥランク	デイ	トラブル

[語彙]

shi	彼女	pati	パーティー	drank	酔っぱらう
trabl	苦勞、迷惑、騒ぎ	pipol	人々	dei	彼ら
go	行く	Amerika	米国	Rok Sen	ロクセン

[文法]

例文(22)に関して：

この例文は、ナウル島のアニバレ・レストランで働く中国人ウェイトレスから採取した。本文中に示されている代名詞 dei の転写をみてみよう。太平洋諸島民のピジン英語では、代名詞の転写が容易に見出せる。

代名詞による転写は、ナウル人および中国人のピジン英語ばかりでなく、太平洋諸島ピジンにも見られる現象である。これは遠く離れたアフリカのピジン英語にも見られるところから、

ピジン英語の形成に際して、話者がいったん頭に浮かんだ名詞句を口から発し、一呼吸おいて、文を立て直すという人類に共通するプロセスが働いた装置といえるのではないだろうか。

下記のナウル語における innen は his mother を、o は she を指す (Rensch 1993:220-221)。他のオーストロネシア系の言語でも一般的である。

(a) Innen o rodu a me babueiji bita nain.

‘His mother came down in a hurry and took up her child in her arms.’

[豆知識：ハンセン病者集団虐殺事件]

第二次世界大戦中に南太平洋の小国ナウル島で起きたハンセン病者集団虐殺事件について、触れておきたい。

ハンセン病者虐殺事件の被害者の人数については文献によって大きく異なる。

戦争当時南洋拓殖会社社員であった石川好雄という人物が避病院に収容されていた 39 名分の患者のリストを持っていた。年齢構成や性別までわかるものであった。島民の教育係だった石川は虐殺の計画を知らされないまま患者を乗せたボートを埠頭で見送っている。帰国後、積極的に裁判で証言をし旧日本軍の非人道性を明かしている。

次に、時期の問題がある。この事件がいつ起きたのかについては、やはり様々な記述が文献資料から窺える。林 (2009) は虐殺事件を 1943 年 7 月とし、その前後にナウル島民をトラック諸島に強制移送させていることから、ハンセン病者虐殺事件は、トラック諸島への強制移送と一連の政策であったという見方をしている。米軍の空爆が激しさを増し防戦一方の状態であったため、日本軍は患者が逃亡するのを恐れたようである。

三つ目に、ハンセン病患者はどのような方法で殺害されてしまったのか触れておかねばならない。多くの文献で砲撃か銃撃という記述が見られる。実際は海軍船の神州丸が患者を乗せたボート (敵軍から奪った) をナウル島が見えなくなるところまでえい航し、砲撃を加え生き残った者を銃撃して殺害したのが事実のようである。

軍上層部のどこまでがこの事件に関与しているのかという問いがある。これについては元副長が命令を下した可能性が高いとされている。また豪州軍は戦後、この元副長に対して別件 (欧州人殺害) で死刑判決を下し、1946 年 8 月に死刑が執行された。

[12] 前置詞

賭け事をしに行くのが好きです。 Mi laiki go gamble.

[表現]

(23) 賭け事が好きです。

Mi laiki go Gamble.
ミー ライキー ゴー ギャムブル

(24) 豚肉をのせたごはんをよく食べます。

We plandi kaikai rais piecee mit kumo.
ウィー プランツィー カイカイ ライス ピースィー ミット クモ

[語彙]

mi	私	laiki	～が好き	gamble	賭け事
we	私たち	kaikai	食べる	rais	ライス
mit	肉	kumo	豚	plandi	たくさん
go	行く	pisi	量詞		

[文法]

例文 (23) に関して：

ピジン英語には、前置詞がある。ナウル語にも前置詞がある。これらの言語は SVO 語順であり、前置詞を有する。

(a) in the otel.
P DET ホテル ‘ホテルに’

(b) N: ijat hotel
p ホテル ‘同上’

ただピジン英語はあまり前置詞が生産的ではない。例文 (a) は、筆者がナウル人話者から採取したものであるが、中国人話者はしばしば次の例文にあるように前置詞を用いない。自然言語がもつ経済性とも言えるが、生じたり生じなかったりするものは、むしろ固定化に向けた過程であるとも考えられる。

(c) NP: Tu gadudu stap otel.
2 子ども いる ホテル ‘ホテルに子どもが2人いる。’

このようにして見ると、例文 (a) ではたまたま前置詞が出現したとも解釈できる。だが後置詞はとらないのでやはり前置詞型と言うべきであろう。

[豆知識：ドイツとの関係]

ドイツは1888年にナウル島を保護領とした。その後、ドイツはただちにナウル人の飲酒や、銃の所持を禁じた。これはそれまでナウルで続いていた10年戦争に終止符をうつことになった。1914年に豪州がナウル島に来島するまで、ドイツの保護領化は続いた。ドイツによる宗教教育が本格化するのは1899年以降のことであった。一夫多妻制や伝統的な踊りや儀式までもが禁じられた。服装にも大きな変化が見られた。これらはいずれも欧州的な宗教の価値観に基づくものであった。ちょうどこの頃、独語とナウル語の二カ国語辞書やキリスト教教会の歴史といった本が書かれた。ドイツは植民地ということばを嫌い、保護領ということばを積極的に用いた [Weeramantry 1992:38]。ドイツによる保護領化がさらに継続されていれば、ピジン英語の中にドイツ語の語彙が混入したかもしれないが、今日におけるピジン英語の中には観察されない。

豪州はドイツのニューギニア進出に特に神経を使っていた。ニューギニアは地理的に豪州に最も近く、いつドイツが南下してくるか警戒しなければならなかったからである。そういう意味ではナウル島が地理的に豪州から離れていたとしても、ドイツの太平洋地域における勢力の拡大は防がなければならなかった。第二次世界大戦下の1940年代初めには、ドイツがナウル島を空爆し再び占領した。戦後、ナウルは豪州、NZ、英国による信託統治下に置かれた。

[13] 数量詞

私には彼女が二人いる。 Mi gat tu piccee gelpren.

[表現]

(25) 私は三匹の豚を飼っている。

Mi	gat	tri	pisi	kumo.
ミ	ガット	トゥリー	ピスイ	クモ

(26) ナウル人は皆たくさん食べる。

olgita	nalu	man	plandi	kaikai.
オルギタ	ナルー	マン	ブランディー	カイカイ

[語彙]

mi	私	Nalu	ナウル共和国	tri	3
olgita	すべての	man	男、人	kumo	豚
gat	もつ	plandi	多くの	pisi	量詞

kaikai 食べ物 tu 2

[文法]

例文 (25) に関して :

数詞と名詞の関係を見てみよう。ピジン英語の量詞 *pi* が定着した背景について、私は英語の *piece* が訛ったものであると考えている。これは、機能的には日本語の「5人の子ども」、「5匹の豚」などの類別詞とほぼ同じである。これは有生か無生か、男性か女性かで種類が異なることはない。数詞には量詞 *pi* を高い頻度で用いる。これは中国沿岸のピジン英語にもかつてあった要素である。中国語にも語形こそ異なるが同じ働きをする要素がある（例は省略）。

- (a) faiv piecee gadudu
 5 量詞 子ども ‘5人の子ども’
- (b) N: aijimo eonin
 5 子ども ‘5人の子ども’

ナウル語も数詞+名詞、の順番をとるが、名詞+数詞、の語順も可能である。

- (27) N: Arumen iti (Rensch 1993:70)
 ‘2 frigate birds’
- (28) N: ibia aijimen (Rensch 1993:70)
 ‘3 lagoon fishes’

[豆知識：ナウル島の中国人]

筆者は、ナウルにおける中国人の言語生活について、面接調査を試みたことがある。調査の方法は、あらかじめ被験者に関する情報を記入する頁と質問項目を用意しておき、島の商店やレストランを一件一件訪問するという手法をとった。男性18名、女性32名の合計50名に面接を実施した。その結果、出身は広東が44名、香港が2名、台湾が1名、無回答が6名であった。母語の内訳は広東語44名、無回答が6名であった。職種は、商店で働く者が22名、レストランが14名、NPC（ナウル燐鉱石公社）が1名、洗濯屋が1名、無回答が12名であった。最終学歴は小学校が11名、中学校12名、高校1名、大学1名、学校に行かなかった者1名、無回答12名であった。年齢は、20代が21名と最も多く、次いで30代が11名、40代が3名、10代が2名、無回答が13名であった。

その結果、ナウルの中国人の特徴をまとめると次のようになる。(1) 広東籍で占められている、(2) 商店やレストランで生計を立てている、(3) 英語とのかかわりは小さく、ピジン英語と広東語での言語生活が主である、(4) 5年未満の居住者が多い。

[14] 動詞連続

うちに遊びに来て下さい。 Kam luksee me.

[表現]

(27) 私は肉を買いに行く。

Mi go bai mit.
ミ ゴ バイ ミット

(28) うちに遊びに来て下さい。 Kam luksee me.

[語彙]

kam	来る	bai	買う	mit	肉
luksee	見る	go	行く	mi	私、私の

[文法]

動詞連続は世界中の接触言語で見出せる。ピジン英語も例外ではない。kam と luksee は動詞としての使用頻度がそれぞれ高く、ナウルではよく耳にすることばである。それはちょうど英語の come と see に相当する。

[豆知識：戦友会の皆さん]

再び日本語の話になるが、戦友会の方々から貴重な証言を得たので、以下に簡単に要約しておく。「我砲射隊は、任務上、砲台から離れるわけにはいかず、島民との交流はさほど多くはなかった。ただ、私は本部に度々出入りしていたので、少しは島民と日本人との関係についてはわかる。ナウル人は訛った日本語でよく、ニホンバンシャイ！カイグンバンシャイ！テンノーバンシャイ！と言っているのを耳にした。桃太郎さんなど幼児向けの歌は教えられていたようだ。全般的にかなり日本語が上手になったものもいるよ。われわれが作るカボチャ畑にもちよくちよく顔を見せ、愛想のよい連中だったな」[岡村 2000:73]。

また別の方によると、こうである。「わたしは昭和 18 年から終戦までナウル島にいた。任務上、砲台から離れるわけにはいかず、地元の人との接触は多い方ではなかった。しかし、たまにわたしたちのいるところにやってくるナウル人がいて、どこで覚えたのか、アリガトウ、コンニチハ、イイオテンキ、などといった日本語を使っていた。聞くとところによると、本部の連中が簡単な日本語を教えたらしい」[岡村 2000:74]。

[15] 述部辞

彼は時計を持っている。 Ada men i gat watch.

[表現]

(29) 彼女はタラワに行く。

Ada gal i go Tarawa.
アダ ギャル イ ゴ タラワ

(30) 彼は時計を持っている。

Ada Men i gat watch.
アダ メン イ ガット ウオッチ

[語彙]

Tarawa	タラワ	gat	持つ	ada men	彼
watch	時計	gal	女の子	i	述部辞
go	行く				

[文法]

見出しの例文に関して：

述語辞は、メラネシア語派に特徴的な文要素である。ピジン英語はあまり頻繁に生じるわけではないが、主語と述語の間に i という不変化詞が生じることがある。ピジン英語が他のピジン英語と接触した際、あまりにも際立った特徴であったため、ナウル島のピジン英語の中に定着しなかったと考える。つまり切り捨てられたわけである。

(a) Ada men i gat watch.
 3 sg PM ある 時計

「彼は大きな時計を持っている」

ナウルのピジン英語においては、述語辞はあまり生産的ではないが、Siegel (1990) が資料収集したときには全く見られなかった要素であることを考えれば、太平洋諸島のピジン英語との言語混合が進行していると考えた方がよさそうである。ちなみにナウル語には存在しない。前にも述べたが、ソロモン諸島からは毎年技術協力で約 50 人のソロモン人がナウル島に来島する。また、中国人が経営する商店やレストランには、キリバス人などの補助店員がいて、中国人とピジン英語を使う機会も多い。日常生活の中で太平洋諸島ピジンが浸透する社会的状況が整っているのである。このように見ると太平洋諸島ピジンは今後、ますますその社会的な機

kam 来る

[文法]

例文 (31) に関して：

ピジン英語は、平叙文のまま文末のイントネーションを上昇させるだけで一般疑問文を作れる。世界の多くの言語がこの方式をとる。

(a) Yu fren kam
2 sg 友だち 来る ‘君の友だちは来る’

(b) Yu fren kam?
2 sg 友だち 来る ‘君の友だちは来るか’

ナウル語は少し複雑な働きをする。本動詞と助動詞の位置が入れ替わることがある。

(c) N: re aijug danom?
来る will 君の友 ‘友だちは来るか?’

(d) N: Nan re danom?
will 来る 君の友 ‘友だちは来るか?’

ピジン英語やクレオール英語の場合、疑問詞は文末に来ることが多い。しかしピジン英語は文頭に来る。

(e) Wat yu kaikai?
何 2 sg 食べる ‘何になさいますか’

(f) We yu stop?
どこ 2 sg 住む ‘どこに住んでいるの’

ナウル語も、文頭に wh 疑問詞が来る。これは固定的である。

(g) N: eken anum wa an?
What food did you eat
‘食事は何になさいましたか’

[豆知識：ナウル島のフィリピン人]

ナウル島のフィリピン人については、その実態があまりわかっていない。筆者がメネン・ホテルに宿泊しているとき、向こうから近づいてくるホテルの従業員がいた。その方はナウル人男性と結婚したフィリピン人従業員であった。ご主人を早くに亡くし、年金で暮らしているようだ。その従業員の長女は日本人男性と結婚し、現在、天王寺に住んでいると教えてくれた。次女は旧ナウル航空の客室乗務員をしていた。

一度、その従業員の自宅に食事に誘われたことがあった。そのパーティーには多くのフィリ

ピン人が集まっていた。なんでも、ここには100人くらいのフィリピン人がいるとのこと。職種は、散髪屋、電気技師、ホテルの従業員、ウェイトレス、事務員など多種多様な職業に就き活躍しているとのこと。漁港を造っている、五洋建設の簡易事務所で事務員をしているフィリピン人もいた。皆が助け合って暮らしているようにも見えた。もともとフィリピンからの出稼ぎ労働者だった人たちが、その後この地に根をはっていったのであろう。

[17] 付加疑問小詞

彼女はフィジーに行きましたね？ Shi go Fiji, is shi?

[表現]

(33) 君は少しだけ英語を話しますね。

Yu	siusiu	toktok	Inglis,	is it?
ユー	スイウスイウ	トクトク	イングリス	イズイット

(34) あなたは料理をしますね？

Yu	kuk	kaikai,	is it?
ユー	クック	カイカイ	イズイット

[語彙]

is shi?	付加疑問小詞	siusiu	少し	toktok	話す
Inglis	英語	yu	あなた	kuk	料理する
kaikai	食事	is it?	付加疑問小詞	shi	彼女
go	行く				

[文法]

例文 (33) に関して：

世界の英語には、上記のような言い方が多くある。人称や数に合わせて付加疑問小詞の種類を決めていくのはそもそも難しいわけである。ピジン英語だけが特別ではない。標準英語では主節が肯定か否定か、主節の主語の人称・数・性はどうなっているか、動詞の種類など、留意しなければならない点がいくつかある。また世界の英語では人称や動詞に関係なく、is it? あるいは isn't it? という形式がくだけた場面で使われる。これは付加疑問の迷路を回避している典型的な例であると思われる。

[豆知識：糖尿病]

ナウルが世界一の肥満大国として、2012年5月6日発行の「朝日新聞グローブ」に掲載されたことがある。ちなみに2位はクック諸島、3位はトンガである。米国は24位、日本は166位と紹介されている。糖尿病になる割合もナウルでは20%以上あり、きわめて高い水準であることが報じられている。さらに男性の平均寿命が49歳、女性のそれは55歳とある。

教育省で職員として勤務する私のナウルの友人は、午前11時頃から休憩に入り、午後2時頃に職場に戻って来る。休み時間は、自宅で大盛りの豚丼（現地では、クモ・ライスと呼ぶ。クモ‘kumo’はナウル語で豚を意味する）を食べる。食後、自宅で少し仮眠をとるらしい。ナウル人は脂身の多い肉が好きである。それが豚肉であれ、ラム肉であれ、牛肉であれ、とにかく豪州人でも敬遠する脂身の部分を好んで食べる。

島で中華レストランを経営するある中国人は、ナウル人は脂っこい食事が好きなので、よく豚丼を出すという。一方、中国人は皆細身である。彼らの賄い料理を筆者はいただいたことがあるが、魚を中心とした健康的なものであった。

[18] 助動詞

行けるよ。 Mi kan du go.

[表現]

(35) 私はテレビを見ることができる。

Mi	kandu	luk see	TV
ミ	カンドゥー	ルックスイー	ティービー

(36) 私はよく寝ることができる。

Mi	kandu	slip	longtaim
ミ	カンドゥー	スリップ	ロングタイム

[語彙]

mi	私	luk see	見る	TV	テレビ
slip	寝る	longtaim	しばしば		

[文法]

見出しの例文に関して：

kan du は、英語の can に相当する。ピジン英語は、助動詞＋本動詞の順番をとることが多

い。これが逆になることはない。語順が VO 型の言語は助動詞が先行する。日本語のように OV 型をとる言語は助動詞が後置する。ナウル語も同じ VO 型の言語なので助動詞が先行する。

- (a) Mi kan du go
 I can go ‘I can go’
- (b) N: oa gonae nuwaw
 can go I ‘I can go’

[豆知識：シーゲル先生]

ナウルのピジン英語は中国沿岸や香港、さらには太平洋諸島といった地域から、ナウル島へ労働者が移住するという形で、20 世紀初頭に成立した。ピジン英語が早くから存在していたことは Rensch (1993) によって報告されている。次の文は 1920 年代のナウル島の様子である(訳は筆者)。「英国燐鉱石公社は今では、大規模な形で燐鉱を採掘している。生産を伸ばすために、ギルバート諸島 (Gilbert Islands) や香港などから労働者を調達していた。全部で 1200 人の外国人労働者がナウル人と仕事や生活をともにしていた。ピジン英語は広範囲なコミュニケーションの道具になっていた」(pp.9-10)。

ピジン英語の研究は豪ニューイングランド大学の Siegel が 1990 年にその言語特徴をはじめ体系的に明らかにした。彼はピジン英語の成立の背景を十分に説明した後、中国沿岸ピジンおよび太平洋諸島ピジンとの比較を行った。ピジン英語がもつ規則性、他のピジン英語との関連性といった研究である。さらにピジン英語は現在でも進化しているという報告をした。今後ピジン英語のオセアニア全体における位置付けがなされるであろう。この研究は後に岡村 (1998) でさらに補足された。岡村はナウル人の使うピジン英語が中国沿岸ピジンの特徴に近いと報告した。

[19] 習慣

私は英語を話しません。 Mi no save toktok Inglis.

[表現]

(37) 私は牛肉をたくさん買う。

Mi	save	bai	planti	bif.
ミ	習慣	バイ	プランツィー	ビフ

(38) 少数の日本人がアイウォホテルに宿泊している。

Siusiu	Japan	man	save	stop	Aiwo	otel.
スイウスイウ	ジャパン	マン	習慣	ストップ	アイウォ	オーテル

[語彙]

mi	私	bai	買う	planti	たくさん
bif	牛肉	man	男、人間	siusiu	少し
Japan	日本	stop	～にいる	Aiwo	アイウォ
otel	ホテル	save	習慣	Inglis	英語
toktok	言う	no	否定辞		

[文法：習慣]

見出しの例文に関して：

ナウル島にあるピジン英語と太平洋諸島ピジンには、すでに語彙・表現上の共通特徴があった。例えば、plenty (たくさん) や savvy (習慣相) など。ナウルのピジン英語は、このような語彙的・文法的な共通特徴を、土台にして発達していると考えられる。例えば savvy は世界中で報告されている文要素であるが、ナウルのピジン英語では mi no sabe dogdog 「英語の話し方がわからない」となる。

1950年代までは非常に限られた領域でのナウルのピジン英語の使用が見られ、その後、太平洋諸島ピジンとの長期間にわたっての平行した共存があり、ついには太平洋諸島ピジンの要素がナウルのピジン英語に混入し始める。またピジン英語の拡大期においてしばしば指摘される、基層語にも上層語にも見られない言語特徴が存在するところから、ナウルのピジン英語は拡大ピジンの段階ではないが、その手前にあると言えるかもしれない。

[豆知識：言語の保持]

一般に、島では言語が保持されやすい。

また主流社会と非主流社会との間の力関係が安定していることは、ピジン英語の安定度にも寄与する。また話者のアイデンティティを確立する道具にもなるであろう。このようにピジン英語を保持していこうとする意識は外的な要因が決め手となる。さらに両者がどのくらい接触の期間と頻度があるかということも重要である。

ナウル語、英語、中国語、ピジン英語の順に階層をなし、それが安定していることがピジン英語の保持に寄与する。中国人は地理的に孤立した場所に住み、ナウル人との接触が制限されたが、自分たち自身の伝統を保持していくには好都合であった。ピジン英語を話す中国人は、

ナウルで威信をもった言語の要素を獲得しても社会の中で地位が上昇することがない。ナウルのピジン英語の話者数は 200 人程度で少ないが、ピジン英語としての安定度は集団の孤立の度合いが高いので言語の保持に成功している。ピジン英語はナウル語や英語と言語の構造が大きく異なり、そのことが両言語の間で収斂を招かずにすんでいる。

言語の衰退を加速させる要因には、政治的側面と居住環境とが最も大きな要因になりうる。もし、言語が公的な地位を有せば、それだけで言語は安定する。また当該ピジン英語話者が拡散しなければ、たとえその集団の規模が小さくても、とりあえず言語の衰退の危険性は回避できる。

あるピジン英語が教育言語として採用されれば、それはそれ自体、当該ピジン英語の安定化に貢献する。しかし、そうでなくとも、安定しているピジン英語はいくらでもある。

またマス・メディアとのかかわりについても同様で、あるピジン英語が、新聞やラジオなどを通じて使用されれば、安定化に貢献する。しかし、そうでなくとも安定しているピジン英語はいくらでもある。

さらに、あるピジン英語の話者集団が属する階級が低くても、必ずしも言語は衰退しない。ナウルのピジン英語はその典型である。ある一定の成員数の話者が拡散せずに保たれていれば衰退はしない。

[20] 指示詞

このホテルは良い。 Dis otel gud.

[表現]

(37) この軍艦鳥は小さい。

Dis	frigate	bird	smol.
デイス	フリゲート	バード	スモル

(38) 多くの人がこのホテルに宿泊しています。

Plandi	man	stop	dis	otel
プランディー	マン	ストップ	デイス	オーテル

[語彙]

plandi	多くの	man	人、男	stop	～にいる
dis	この	otel	ホテル	smol	小さい
frigate bird	軍艦鳥	gud	良い		

[文法]

見出しの例文に関して：

ピジン英語は指示詞＋名詞の順番をとる。ナウル語は指示詞＋名詞、名詞＋指示詞のどちらの語順も可能である。

(a) Olo flen (Siegel 1990:183)

‘This other friend’

(b) N: marane da-buch

この本 ‘この本’

ナウル語の二通りの方法については、Rensch より引用する。

(c) Namane etabuike (Rensch 1993:31)

‘This stick here’

(d) Tabuike mane (Rensch 1993:31)

‘This stick here’

[豆知識：子どもと軍艦鳥]

ポルトガル語起源とされる *savee* および *sabee* は今日世界中のピジン英語に存在するが、ナウルのピジン英語にもある。

もう一つ多くのピジン英語に存在する、子どもを意味する *pikinini* もポルトガル語起源とされる。しかしナウルのピジン英語は、*save* は受け入れたが、*pikinini* は土地言語の語彙 *gadudu* (子ども) を使う。きっと中国人にとって、ここナウル島では、ナウル語の *gadudu* のほうが、便利だったのであろう。それにしてもガドウドゥというのは興味深い。それは *pikinini* を寄せつけない何かがある。従来の学説の中に、ポルトガル人が世界の港に立ち寄って、これら *sabe* や *pikinini* といった語彙をそれぞれの寄港地で落としていったとするものがある。このように考えれば、なぜ世界中のピジン英語に上記の語彙が存在するのか説明ができる。

その子どもたちのペットになっているのが軍艦鳥である。鳥の足に紐をくくりつけ、外で飼っている。この軍艦鳥の糞が長年堆積し燐になったというのは科学的な根拠があるのだろうか。

[21] 関係節

ナウルに来る旅行者がたくさんいる。 *yau planti turist kam Nalu*

[表現]

(39) 米国に行く人が2、3人いる。

Yau siusiu go Amelika. (Siegel 1990:171 を基に一部修正)
ヤウ スィウスィウ ゴ アメリカ

[語彙]

yau	～がある。	go	行く	siusiu	少し
Amelika	米国	kam	来る	tourist	旅行者
planti	多くの	Nalu	ナウル		

[文法]

ピジン英語に関係詞は存在しないが、分岐する要素は非分岐構造の右側に現れているので、右分岐型言語と言える。

(a) N: areaname kor marana ituber mo
運ぶ 私のところへ 冠詞 マット 良い
'良いマットを私のところに持って来てちょうだい'

[豆知識：中国語との関係]

ピジン英語は、実は中国語の特徴と類似している。オセアニアにおける英語基盤のピジンの中では、ナウルのピジン英語だけが孤立しているような印象を与える。広東や香港から燐鉍石採掘労働者として入島した、話し手がたどった歴史的な偶然の産物なのであろう。

まず、基本語順に関して、英語基盤の接触言語の中にあっては、ピジン英語はどの接触言語とも特徴を共有しない。特に、「所有格と名詞」については、他の接触言語と際立った相違を見せる。さらに、「副詞と動詞」、「副詞と形容詞」、「特殊疑問文の位置」において、他の接触言語との相違を見せる。したがって、ナウルのピジン英語は、オセアニアの接触言語全体から見ると、類型論的特徴が大きく異なると言わざるを得ない。ピジン英語が周辺の接触言語と特徴を異にする理由は、二つある。一つは、中国沿岸ピジン話者が中国から、ナウル島へ移住という形で言語が定着したこと、もう一つは、ナウル島における、中国人と太平洋諸島民との限定的な接触という社会的要因がその背景として考えられる。

そして、一般の言語との関連では、ピジン英語は中国語と特徴を共有する部分が多い。ピジン英語は、中国大陸との地理的・歴史的な連続性を有していることがわかる [岡村 2011]。

[22] 比較

うちの犬はきみんちのより小さい。 Mi dok smolfela blong yu.

[表現]

(56) おまえんところの豚はおれんところよりよく食べる。

Yu	kumo	kaikai	planti	blong	mi.
ユー	クモ	カイカイ	プランツィー	ブロング	ミ

[語彙]

mi	私	yu	君	dok	犬
kumo	豚	smolfela	小さい	kaikai	食べる
blong yu	君の	planti	たくさん	blong mi	私の

[文法]

ピジン英語は、形容詞+比較の基準、の順番である。

(a) yu pik bigfela blong mi pik. 'Your pig is bigger than mine.'

ナウル語は、形容詞+比較の基準+比較の印、の順番である。この語順は固定的である。これは VO 型の言語がよくとる統語形式である。

(b) N: wam kumo re duweduw a ekan munana wana (Rensch 1993:16)

'your pigs are fatter than mine.'

インフォーマントによると、次のような言い方もできるという。これは若い世代のナウル人がよく用いる。いずれにしても、形容詞+比較の基準+比較の印、の順番は同じである。

(c) N: duweduw ken nana wam ikumo ea manane wana
fatter yours pig than mine

'your pigs are fatter than mine.'

[豆知識：南洋拓殖株式会社]

南拓は昭和 11 年に設立され、パラオ諸島のコロール島に本社を置いた。東京支店は支社出張所扱いとなっていた。現在の麴町のビルを借りて事業を執り行っていた。社長は深尾隆太郎男爵、他に理事が 3 名、監事が 2 名いた。資本金は 2000 万円、主要な出資者として南洋庁、南洋興発、三井物産、三菱合資、三井鉱山、日本郵船、東洋拓殖があった。

重要財産として指定されたのは、アンガウル島とフェイス島である。前者はパラオ共和国、後者はミクロネシア連邦ヤップ州にある。昭和 13 年 6 月の時点での両島への投資額は約

9,904,000 円とある。他にも貸し付け業務を移民や農業者らに行い成長していったようである。南拓は、ナウル島の燐鉱石についての情報はすでに持っていたが、日本からナウル島に調査隊が来島したのが、1942 年なので、着々と燐鉱の開発の範囲を広げていったことがわかる。実際、1939 年にはマーシャル諸島共和国のエボン島で、1941 年にはパラオ共和国のソンソロール島で採掘を開始している [岡村 2015]。

南拓は、大東亜共栄圏の建設に向けて、南方の開発事業を先導し、国策本意の国策遂行機関として邁進すべき重大な任務を課せられていたのである。その南拓は昭和 20 年 9 月 30 日に GHQ によって指定解体されている。戦時中、南拓が日本政府から求められたことは何だったのか、昭和 57 年に発行された、『南拓誌』から拾ってみたい。そこには「先進する軍の通訳として、また現地案内役としての活動」「占領地行政に対する積極的な協力」「現地軍に対する新鮮な野菜類の供給、または食糧の供給」「敵産農園の管理」とあり、戦争末期には現地軍に積極的に協力し、多くの犠牲者を出したとある。語学や農業の知識が豊富な人材が南拓にはいた。戦時下の南拓の直接的な業務は、燐鉱資源の開発であり、間接的には、大東亜共栄圏の建設を日本軍とともに行うことだったのである [岡村 2015]。

[23] 条件文

君が嘘をついていないのならだいじょうぶだ。 No lai olait okei

[表現]

(41) もしあなたがたくさんお金をもっていたら、可能でしょうね。

Plandi kandu e (Siegel 1990:164)

プランディ カンドゥー ア

(42) もし船が沖合に停泊していたら野菜も供給されるということだ。そうでなければ、野菜は調達できない。

Yau sop kam yau, mo sop kam mo (p.171)

ヤウ ソップ カム ヤウ モ ソップ カム モ

[語彙]

plandi 多くの e 付加疑問小詞 kandu ~できる

yau 存在を表す sop 船 kam 来る

mo より多くの olait よし ok わかった

lai 嘘をつく

[文法]

ピジン英語は、条件節+主節、主節+条件節の語順が可能である。例文 (a) と (b) は、現実的条件を表す。現実条件の前件は、現在か未来のテンスを取り、平叙文か命令文になる。

- (a) yau fiji no kam a nalu no kaikai, no kan kaikai. (Siegel 1990:182)

‘If things don’t come from Fiji, there’s no food in Nauru.’

- (b) no kan kaikai, yau fiji no kam a nalu no kaikai,

ピジン英語も条件節が先行しやすいが、主節もかなりの頻度で先行する。

ナウル語の場合、条件節は前にも後ろにも来る。インフォーマントによると、条件節を先行させた言い方も可能であるという。しかも、どちらも同じくらい一般的だと言う。

- (c) N: W eab timor io eo nan a doctor. (Rensch 1993:215)

主節 条件節

‘You will not be cured if you do not see the Doctor.’

- (d) N: io eo nan a doctor, w eab timor

条件節 主節

[豆知識：日本を訪問するナウル人]

日本を訪れるナウル人は決して多くはない。しかし2015年5月22日及び23日福島県いわき市で開催された島サミットには、ナウルの政府関係者が来日した。また東京の赤坂にあるアジア会館内にある太平洋協会は、これまでナウルの大統領らを何度もお迎えし、日本とナウルの交流に尽力している。さらに福岡県の国際交流プログラムを利用して、来日したナウルの若者もいる。

筆者の知り合いに新潟県佐渡市に住んでいる方がいる。この方のご主人はもう亡くなったが、戦時中、トラック諸島の農場でナウルから移送されてきたナウル人を預かっている。当時を懐かしむナウル人は多く、わざわざ新潟までこのご主人に会いに来たことがあるとのこと。またこの方もナウルに何度も足を運び旧交を温めたようである [私信2013年]。この方の名前は、ナウルの国歌にも登場するくらい多くのナウル人に親しまれている。とてもめんどろみの良い方だったようである。その方は榎美弘さんという。奥様も大変すばらしい方である。

おわりに

以上、本学の専門科目「地域研究A」の教材作成の一環として、ピジン英語の発音、アクセント、表現、語彙、文法、豆知識を概観した。その結果、ナウル島のピジン英語は周辺にある接触言語と大きく特徴が異なるばかりでなく、ナウル語とも異なっていることが明らかになった。このピジン英語はクレオール化するに至っていないが、周辺の言語の影響を受けながら

言語としてどのように成熟していくのか観察が必要である。

また多くの言語学者が活用できる資料となればと考えている。資料は決して充分ではないが、この言語を研究対象とする若手の研究者が出現しさらなる調査と研究を行なってもらいたいと切に願っている。

謝辞

本資料を刊行するに当たって、実に多くの方々との協力を得た。戦時中における日本人とナウル人の接触については、元砲射隊・ナウル通信会員や元トラック島軍医、そして元砲射隊・ナウル四高会員に情報提供してもらった。

ナウルのピジン英語の資料は、アニバレ・レストランとメネン・ホテルの従業員から録音させていただいた。ナウルの教育事情については、各学校の校長先生に聞き取りをした。ナウル島の中国人の言語生活については、中華街および中華レストランの広東人 50 名に聞き取りをした。戦時中の日本語教育については、ナウル教育省の案内により 6 名の方々の協力を得られた。ナウル語については、ブリズベンにあるナウル共和国総領事館職員にご協力いただいた。

引用文献

朝日新聞グローブ「特集・肥満」2012年5月6日発行

岡村 徹 (1998) 「オセアニアの言語混合－ナウルの場合」『マイクロネシア』通巻106号 pp.30-38. 社団法人日本マイクロネシア協会

岡村 徹 (2000) 「戦時下におけるナウル島の日本語教育」『オーストラリア研究』第26号 追手門学院大学オーストラリア研究所 pp.61-82

岡村 徹 (2004) 「ナウル島における接触言語－接触言語の安定度を決める要因」博士論文, 九州大学

岡村 徹 (2008, 2009, 2014) 「ナウル島からの手紙」『菊池野』通巻第636号, 649号, 704号, 705号, 706号, 707号, 708号, 菊池恵楓園入所者自治会

岡村 徹 (2011) 「ナウル・ピジンの類型論的位置づけ－特に語順の特徴を中心に」『帝塚山学院大学研究論集』第45集 pp.1-26

岡村 徹 (2015) 「ハンセン病患者集団虐殺事件と旧南拓社員の証言」『南方文化』pp.93-116. 天理大学南方文化研究会

崎山 理 (1986) 「パプア諸語とオーストロネシア諸語の言語接触：特に語順変化について」『国立民族学博物館研究報告』11-2, 355-82.

テレビ東京報道局 (編) (2016) 『沸騰現場を通じて考える「ニッポン再発見」』東京：日本経済新聞出版社

トッド, L. (田中幸子訳) (1986) 『ピジン・クレオール入門』東京：大修館書店

林博史 (2009) 「ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件 (上)」『季刊 戦争責任研究』第64号, 41-49

林博史 (2009) 「ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件 (下)」『季刊 戦争責任研究』第65号, 66-76.

ビッカートン, D. (西光義弘ほか訳) (1985) 『言語のルーツ』東京：大修館書店

南拓会 (1982) 『南拓誌』東京：南拓会

山本秀樹 (2003) 『世界諸言語の地理的系統的分布とその変遷』広島：溪水社

〈英文資料〉

Chang, J. (1987) “Chinese Speakers” in Michael Swan and Bernard Smith (eds.) *Learner English*. Cambridge: Cambridge University Press.

Garrett, Jemima. (1996) *Island Exiles*. Sydney: ABC Book.

Okamura, T. (ed.) (2007) *Language in Papua New Guinea*. Tokyo: Hituzi Syobo Publishing.

Rensch, K. H. (1993) *Nauru Grammar*. Canberra: A Publication of the Embassy of the Federal Republic of Ger-

many.

Siegel, J. (1990) "Pidgin English in Nauru." *Journal of Pidgin and Creole Languages*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Co. pp.157-186.

Sun Sydney, Aug 21, 1945.

Todd, L. (1974) *Pidgins and Creoles*. London: Routledge and Kegan Paul.

Todd, L. (1984) *Modern Englishes*. Oxford: Blackwell.

Weeramantry, C. (1992) *Nauru*. Melbourne: Oxford University Press.

Williams, M. and Barrie Macdonald. (1985) *The Phosphateers*. Melbourne: Melbourne University Press.

* 本書で使われている略語：

1 sg, 1人称単数；P, 前置詞；DET, 限定詞；POSS, 所有；NUM, 数詞；PM, 述部辞；AUX, 助動詞；2 sg, 2人称単数；NEG, 否定語；C, 接続詞；1 pl, 1人称複数；v, 動詞；S, 文；Inclu, 包括複数；NP or NPE, ナウル・ピジン；TP, トクピシン；N, ナウル語；SP, ソロモン諸島ピジン；BI, ビズラマ語；F, フィジアン・ピジン；TC, トレス海峡諸島クレオール；NF, ノーフォーク語；HM, ヒリモツ語；C, 中国語；TAH, タヒチ語；TOL, トライ語；Eng, 英語